



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業に伴い、各学校、各市町等教育委員会におかれましては、子どもたちの居場所を確保したり、学びの場を提供したりする等、適切にご対応いただいているところです。引き続き、子どもたちが安心して休業期間を過ごすことができるようご対応をお願いします。またその中で、可能な限り子どもたちの家庭学習のための支援をお願いします。

### 子どもたちの家庭学習を支援します

県教育委員会では、下記のみえの学力向上県民運動 web ページで学習教材を提供しています。子どもたちや学校の状況に応じて家庭学習等にご活用ください。なお、各学年の3学期の学習内容に関連した学習教材については、「学 viva セット 14・15・16 弾」「育成カリキュラム（「割合編」「図形編」「読む力・伝える力編）」のたしかめプリント」の中にありますので合わせてご活用ください。

また、下記文部科学省 web サイト内にも公的機関等が作成した、自宅等で活用できる教材や動画等のリンクを紹介したサイトが開設されていますので、ご参照ください。

### ○ 県教育委員会が提供している学習教材

**みえの学力向上県民運動トップページ**  
<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>

家庭等から、パスワードなしでダウンロードができます。

**● 家庭学習用プリント**

- 計算(けいさん)プリント
- 漢字(かんじ)プリント
 

小3	小4
小5	小6
中1	中2
中3	
- たしかめプリント「計算マスター」  
(小学校1年生から小学校6年生までに習う計算)

**● 先生のページ**

- 授業改善サイクル支援ネット
- 学-Viva!! セット
 

小学校	中学校
-----	-----
- 育成カリキュラム たしかめプリント
 

割合編	図形編
読む力・伝える力編	たしかめプリント
- 学-Viva!! ドリル
 

1シート5分でできる!!	
学-Viva!! ドリル	
国語	算数・数学

◆ 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題  
◆ 1シート5分程度  
◆ 補充学習、家庭学習等で活用できます！

### ○ 文部科学省が提供している学習支援サイト

臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト

**「子供の学び応援サイト」**  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/index\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm)

本サイトは、文部科学省の web サイト内に開設したもので、学校種ごと、教科等ごとに掲載されており、各自治体等から情報を収集するなどしながら、コンテンツが随時充実される予定です。

なお、三重県総合教育センターweb ページに、臨時休業期間における家庭での学習支援コンテンツについて、文部科学省および経済産業省の web ページのリンク先を掲載していますのでご参照ください。



## 令和元年度第2回みえスタディ・チェックから～成果と課題～

- 第2回みえスタディ・チェックの前回からの改善状況を問題別に見ると、「できるようになった問題」と「できなかった問題」が明らかになってきます。問題別に改善状況をとらえ、年間を通じて計画的に「できるようになる取組」を、学校全体で進めていきましょう。

### 成果

#### 4月のみえスタディ・チェックで出題された問題が、できるようになっています

4月に実施したみえスタディ・チェックで出題した問題を今回再度出題しました。主語と述語の照応、倍、角の大きさ、度数分布多角形の特徴等に関する問題ができるようになりました。各学校で、繰り返し指導を行うなど学習内容の理解・定着につなげる取組を進めてきた成果であると考えています。

	教科	問題番号と問題概要	県平均正答率		改善状況
			今回	4月	
小学校	国語	1二(2) 主語・述語(文を書き直す)	60.1%	38.1%	+22.0
	算数	1(3) えんとつは電柱の何倍かを求める	85.2%	50.3%	+34.9
		2(1) 180°よりの角の大きさを測る	67.5%	28.9%	+38.6
中学校	国語	1六 封筒の宛名を書く<H31全国学調>	59.1%	53.4%	+5.7
	数学	5(3) 度数分布多角形の特徴を基に理由の説明を書く	30.0%	26.9%	+3.1

### 課題

#### 読む力・図形等の問題には、課題が見られます

これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックで出題した問題のうち、課題となっていた問題等を出題しました。特に読む力、図形に係る問題等で、改善が難しい状況にあります。

	教科	問題番号と問題概要	県平均正答率		改善状況
			今回	過去	
小学校	国語	4二(1) 文章のまとめの空欄にあてはまる文章を選ぶ	H28第1回みえスタ小5 75.6%	88.4%	-12.8
	算数	4(3) 20-4の式がどの部分を表しているかを書く	H31全国学調小算 26.3%	40.1%	-13.8
中学校	国語	4一 文章の構成について説明したものを選ぶ	H30全国学調中国A 79.4%	88.7%	-9.3
	数学	3(2) 三角形の合同の証明を記述する	H29第2回みえスタ中2 56.6%	62.8%	-6.2

### 注目

#### 経年的に出題している設問の改善を図りましょう

小学校算数 1(2) 「答えが、 $12 \div 0.8$  の式で求められる問題を4つの中からすべて選ぶ」設問の正答率が下降しています。

答えが  $12 \div 0.8$  の式で求められる問題を、下のアからエまでの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

ア 赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。

イ 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていきます。0.8mのリボンは何本できますか。

ウ 0.8Lで板を12㎡ぬることができペンキがあります。このペンキ1Lでは、板を何㎡ぬることができますか。

エ 1mの重さが12kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう0.8mの重さは何kgですか。

H30全国学調 2 36.9% (全国 39.9) → H30第2回みえスタディ 27.6% → R1第2回みえスタディ 24.5%

小数の除法の場面における、二つの数量の関係の理解や除法の意味の理解に課題が見られます。算数の学習では、問題場面の数量について考察し、数量の関係を図や数直線等に表す活動や、乗法や除法の意味を確認する活動を単元や学年の枠を超えて丁寧に進めていくことが大切です。

今回のみえスタディ・チェックの結果や課題の改善に向けた指導のポイントについては、「みえの学力向上県民運動」webページに掲載していますので是非今後の授業改善の参考にしてください。

ダウンロードはこちら!



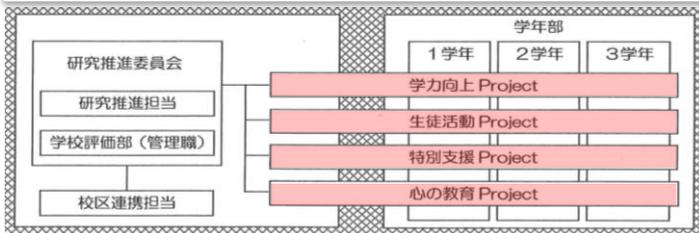
【事例 38】 鳥羽市立鳥羽東中学校  
～取組のPDCAサイクルのCAを大切に～

鳥羽東中学校では、「生きる力」の育成をめざし、「自らの考える力」、「互いに支え合う力」に力点を置いて教科指導や学校行事等に取り組んでいます。4つのプロジェクトチーム（学力向上・生徒活動・特別支援・心の教育）の取組において、PDCAサイクルの確立を図るため、これまで年1回実施していた生徒アンケート（「めあて・振り返り」、学校生活、学習習慣等に関する内容）を、1学期末と2学期末の2回に変更し、そのアンケート結果をふまえた各チームの自己評価をもとに取組の改善を図っています。

取組 教育内容の質の向上に向けて4つのプロジェクトチームが取組のPDCAサイクルを2回まわす

(1) プロジェクトチームの体制について

〈自己評価シート〉チームが学期ごとに自己評価シート（重点目標、重点取組、具体的方策、評価指標を設定）を提案し、取組を進めています。

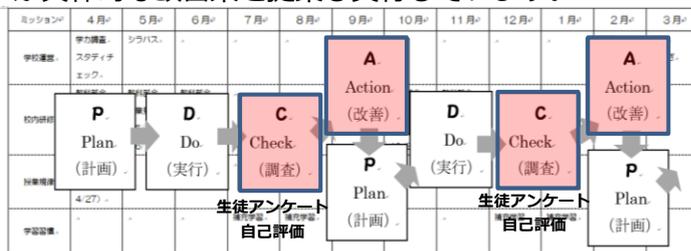


〈チーム編成〉教科や学年を超えて4つプロジェクトチームが編成され、全教職員による協働体制を構築するため、ベテランのサポートのもとチームのリーダーを若い教員が担っています。

〈会議時間の確保〉週の時間割の中に学年部会とプロジェクトチーム会議を定例で設定し、会議時間を確保しています。このことにより放課後はクラブ指導や教材研究等に充てることができています。

(2) 生徒アンケート結果をふまえたPDCAサイクルの確立

年間2回の生徒アンケートをもとに、結果から見えてきた課題に対して、各プロジェクトチームが具体的な改善策を提案し実行しています。



P: 重点目標、年間計画、自己評価シートの提案  
D: 計画に沿った教育課程全体を通じた教育活動の実行  
C: 生徒アンケート及び4つのプロジェクトチームにおける自己評価による検証  
A: 各チームが教育活動を改善→P: 計画を修正し、早期に教育活動の実行につなげる

(3) 具体的取組例

1学期末のアンケートから、「めあて・振り返り」の項目について課題が見られました。その結果をふまえ、教員の授業力の向上に向け、特に「めあて・振り返り」の質の向上に重点をおき、市教委の指導主事を招へいたした研究授業を実施しました。

〈「めあて・振り返り」の質の向上に向けた取組〉

- 2学期
- ・「めあて・振り返り」「主体的・対話的な学びの場の設定」「効果的な発問」の3点を参観の視点とした各学年単位でのミニ研究会（放課後等に授業者と協議）を実施
  - ・学力向上プロジェクトチームが中心となり、授業改善に関する学年会を複数回企画し、3つの視点について協議
- ↓
- 3学期
- ・各学年でミニ授業研究会を企画し、3つの視点に加えて、他教科でも取り入れた授業アイデア、授業規律のあり方等についても協議

〈成果・課題〉

- これらの取組により各教科の「めあて・振り返り」について、例えば、めあてを提示するタイミングやめあてに立ち戻る場面の設定、振り返りシートの活用方法、めあてに正対した振り返り等、質の向上が図られつつあります。
- 生徒は、見通しを持って学習に臨むことができるようになりつつあります。しかし、2学期末の生徒アンケートからは、十分な改善に至っていない状況が見られました。今後、「めあて・振り返り」がよりよいものとなるようさらなる改善が必要となります。

●●●●● 鳥羽市立鳥羽東中学校長からのコメント ●●●●●

本校では、子どもたちの「生きる力」の育成をめざし、若い教員がプロジェクトリーダーとなって、「あたり前のことを丁寧にやっていく」ことをモットーに組織づくりを進めています。「ミニ授業研究会」など授業交流を通して、授業アイデアの交流や授業規律の定着も図っています。また、子ども一人ひとりとの関係性を築きながら寄り添い見守る教師の姿勢が、鳥羽東中学校スタンダードとして根付くつつあります。

## 新学習指導要領のもとで実施する学習評価②

前回の1月号では、次のような学習評価の改善の方向性や観点の整理についてお伝えしました。

- 児童生徒の学習改善、教師の指導改善につながるものにしていくこと
- 育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて3観点に整理すること

今回は、評価の3観点それぞれについて、どのような考え方で評価をするのかをお伝えします。なお、この評価の考え方は、小学校外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動においても同様に考えることができます。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と、それを通して育成する資質・能力との関連を意識しながら、評価の各観点の考え方を確認してください。

### 「知識・技能」の評価

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

### 「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面を評価します。

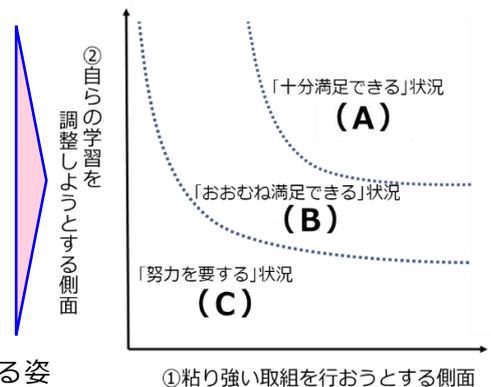
単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するものではありません。

- ×挙手の回数
- ×毎時間ノートをとっているかなど

現行の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、今回、その趣旨が「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調されました。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

- 「主体的に学習に取り組む態度」は、次の①、②の二つの側面から評価します。
  - ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
  - ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
- これら①、②の姿は実際の教科等の学びの中では別々でなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、次のような姿は一般的ではありません。
  - ・自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿
  - ・粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿



ここでの評価は、児童生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

この考え方に基づけば・・・

単元の導入段階では観点別の学習状況にばらつき\*が生じるとしても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末、学年末の評価については、観点ごとに大きな差は生じないと考えられます。

#### \* 観点別の学習状況にばらつき

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、例えば、「CCA」や「AAC」といったばらつきのあるものになること。

◇各教科等の観点の趣旨等くわしくは「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」で確認を！  
「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（別紙4）  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/nc/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415196\\_4\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/nc/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415196_4_1_2.pdf)

◎「三重の学-Viva!! (まなびば)」4月号では、評価の方法、評定について掲載する予定です◎